

さらしな堂の新刊！

地名遺産 さらしな

～みやこびと都人のあこがれ、そして今

長野県千曲市が
「月の都」となった
メカニズムも解明！

純白のさらしな

「さらしな」は世界文化遺産級の地名

冠着山（姨捨山）のふもとに今も！

本書は「さらしな」という地名にこだわります。長野県千曲市の冠着山（姨捨山）のふもとにあります。「姨捨」というと、重要な文化的景観の棚田が有名ですが、本書では棚田が有名になる前の「さらしな」という地名にこだわります。「さらしな」には、天皇家をはじめ奈良・平安の古代から日本人が「白」という色彩に抱いていた伝統的な美意識が凝縮しているからです。都人たちの強烈なあこがれ「さらしな」の昔と今を紹介し、「さらしな」という地名が世界の文化遺産であることを明らかにします。



写真盛りだくさん、漢字にはレゾ、Q&Aも！

A 5判並製カラー、112 ページ、価格 1000 円

19	エピソード・地名遺産のメカニズム
18	LADY SARASHINAとして世界にさらしなの里の文化団体「更級人風月の会」
17	さらしなの聖地、郷嶺山
16	清澄さ強調した更級小学校校歌
15	さらしなの恩人、塚田小右衛門さん
14	日本の美意識が凝縮したさらしなの和歌
13	そばの名前に採用された「さらしな」
12	「さらしな」に純白をイメージした和歌
11	「更級」を苗字にした人
10	各地に広まった地名「さらしな」
9	「花の吉野」と並ぶ「月のさらしな」
8	さらしなに「清浄」をイメージした句碑
7	松尾芭蕉があこがれたさらしなの月
6	さらしなの里で癒された天皇家の皇子
5	天皇家の宝物になった「更級日記」
4	「さらしな」をライバル視した豊臣秀吉
3	「百人一首」選者のさらしなへの思い入れ
2	平安時代の日記文学のタイトルに
1	京都御所にある「さらしなの里」
目次	
プロローグ・世界文化遺産級の地名	